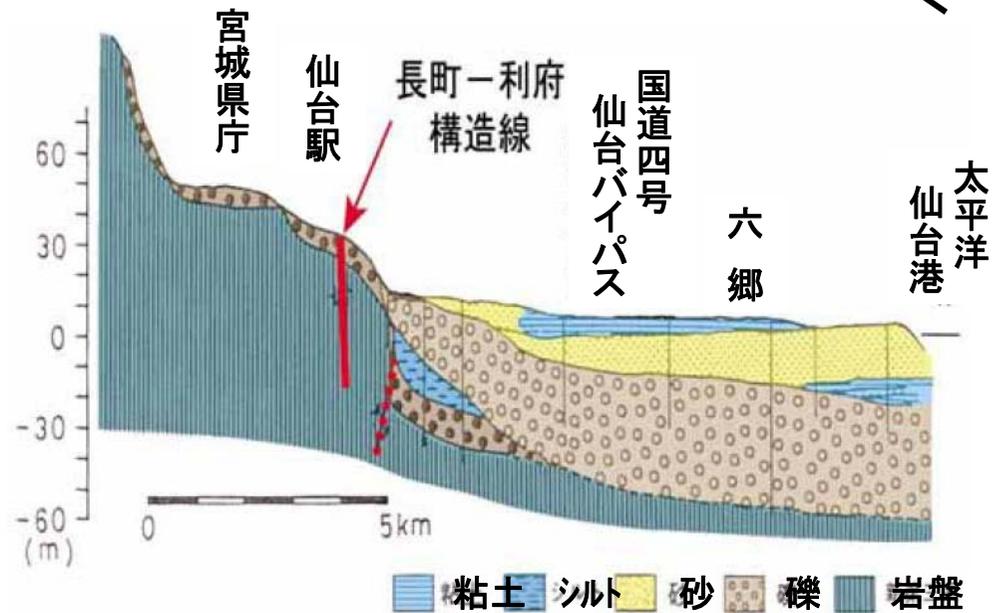
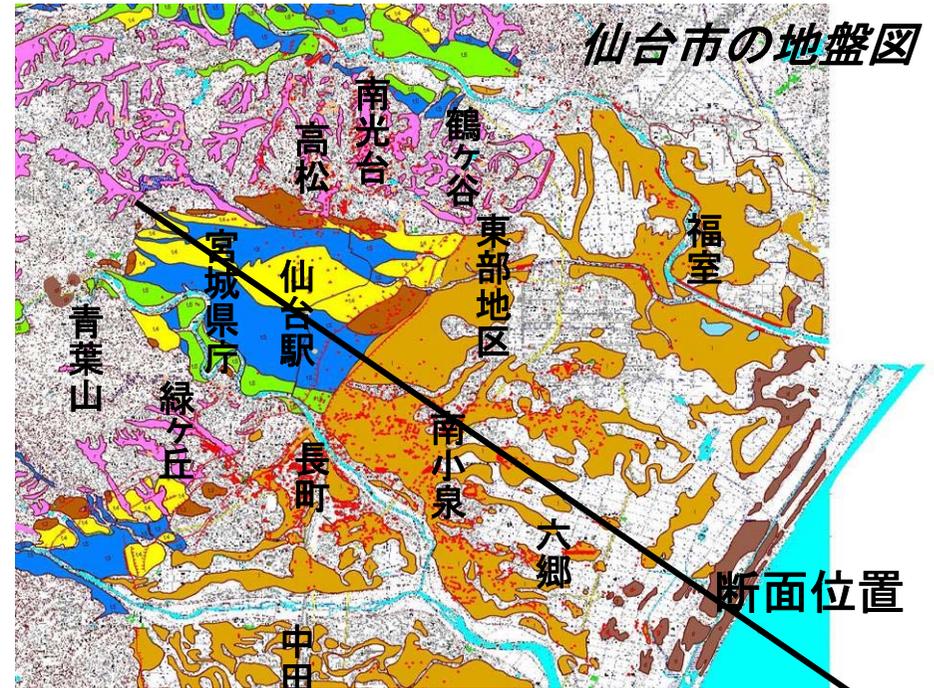


南小泉周辺の地盤

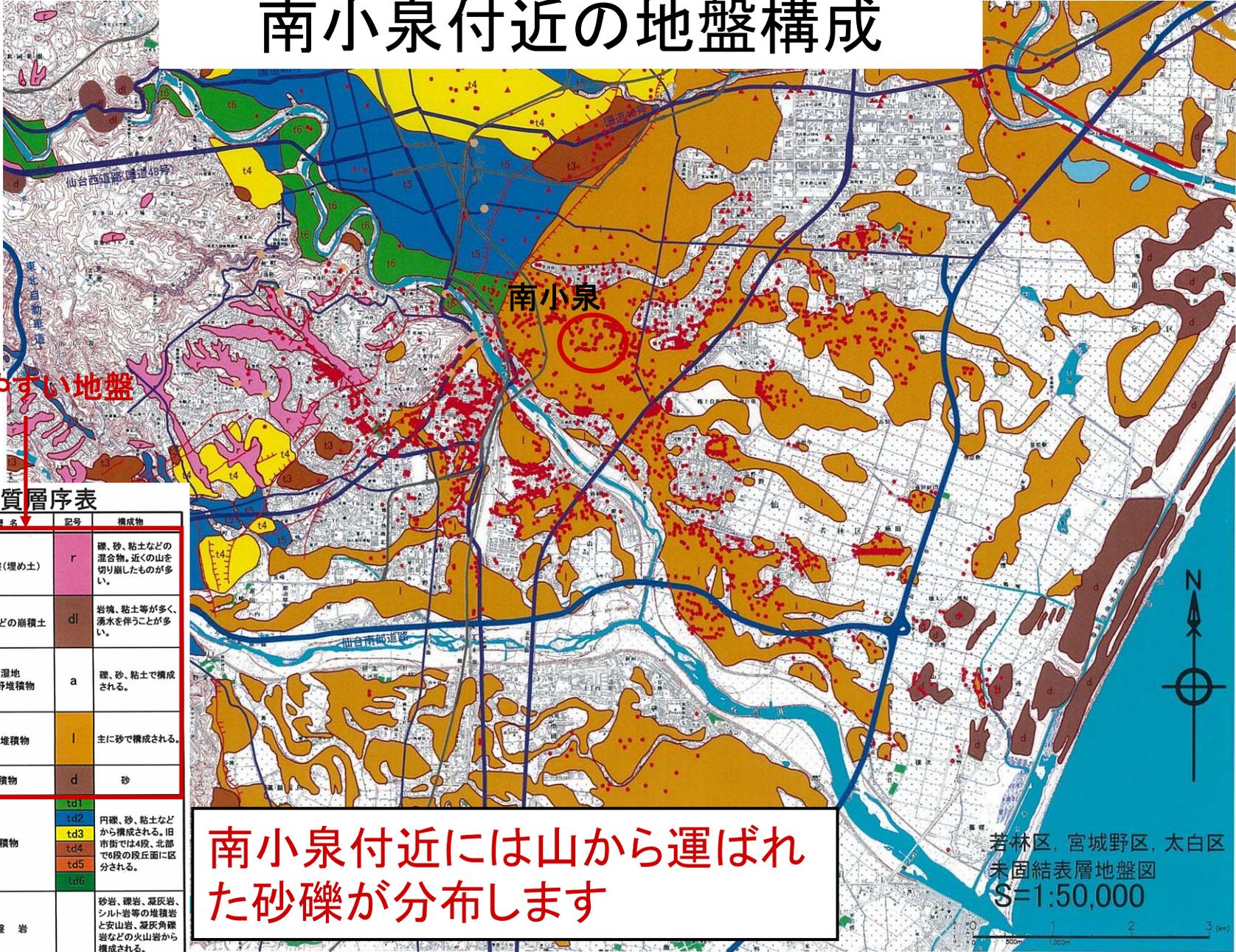
- ・丘陵地……旧仙台市街地の北、南、西側周辺地域:
岩盤(軟岩)
- ・段丘……旧仙台市街地、七北田川・広瀬川・名取川沿い:
薄い礫層(下に岩盤)
- ・沖積平野……旧仙台市街地東側:(南小泉)地形から**自然堤防、後背湿地**, 最上部は軟弱な**砂・粘土**(岩盤が深い)
- ・宅地造成地……丘陵地を改変:
人工地盤(一部、盛土・埋め土)



仙台市の東西方向の地質断面図

*「水文環境図 仙台平野(1/20万)」((独)産業技術総合研究所地質調査情報部発行)より転載

南小泉付近の地盤構成



ゆれやすい地盤

地質層序表

時代	地層名	記号	構成物
完 新 世	人工地盤(埋め土)	r	礫、砂、粘土などの混合物。近くの山を切り崩したものが多し。
	地すべりなどの崩積土	dl	岩塊、粘土等が多く、湧水を伴うことが多い。
	後背湿地 谷底平野堆積物	a	礫、砂、粘土で構成される。
	自然堤防堆積物	l	主に砂で構成される。
	浜堤堆積物	d	砂
更 新 世	段丘堆積物	td1	円礫、砂、粘土などから構成される。旧市街では4段、北部で6段の段丘面に区分される。
		td2	
		td3	
		td4	
		td5	
		td6	
新 第三 世 以前	基盤岩		砂岩、礫岩、凝灰岩、シルト岩等の堆積岩と安山岩、凝灰角礫岩などの火山岩から構成される。

南小泉付近には山から運ばれた砂礫が分布します

若林区、宮城野区、太白区
未固結表層地盤図
S=1:50,000

南小泉付近の地盤構成とゆれの特徴

